

▼北陸

【富山】3年ぶりの万葉朗唱の会

麻生 千賀子(KNB)

万葉集全 20巻 4516首を、高岡古城公園の水上舞台で3日間かけて歌い継ぐこのイベントも、コロナ禍の過去2年は、募集した動画をケーブルテレビで流すだけのものでした。

3年ぶりに復活した水上舞台に意気込んだ当クラブですが、コロナ対策のため、万葉衣装の貸し出しが無くなったことはとても残念でした。

万葉衣装の代わりに何を着ようかと悩んだ末、着物を選んだのは女性3人。



水濠に設けられた舞台にて

当日は雨。着物姿の女性3人は凸凹の石の階段をやっとの思いで下り、水上舞台袖に到着。この時、雨は止んでいました。

男性3人、女性4人(1人は初参加)、今年も元気に参加することができました。これからも元気でありますようにと願いを込めて朗唱しました。

【石川】やり切ったぜ！

合同作品展

本谷 公夫(MRO)

今回の合同作品展、まずはその会場の紹介から。

ここは、大正時代に作られた紡績工場跡に完成した金沢市民芸術村。年中無休、24時間使用できる施設です。

早速、会場下見ということになったのですが、広い…広すぎる。元々、紡績会社の倉庫であった建物ですから、会場の延べ面積は900平方メートル近く、ちよつとした体育館並み。

広い空間を生かして、どのように展示するか？が悩みでしたが、パネルや画を掛けるイーゼルなどは豊富に揃えられています。

狭いギャラリーとは違い、ここでは空間を生かしながら、それぞれの作品を見てもらえるのが魅力です。

写真や絵画だけでは平面的になるのを、服飾作品や陶芸・工芸品で立体感を補い、また、俳句作品で文学の世界にも誘えるという、バラエティに富んだ合同作品展になりました。



設営終了後の記念写真

【福井】初の餅つきに挑戦

小川 忍(f t b)

いまだ完結しないコロナ禍ではありますが、久しぶりの民放クラブイベント「幸楽会」を10月24日に開催しました。恒例の「干し柿作り」に加え、今回、初めて「餅つき」を取り入れました。



若手会員による餅つき

会場は、古民家を改装したレストラン、その名も「杵と臼」。そこを貸切つての開催でした。参加した25名は、まず干し柿用の渋柿(1人30個ほどの皮むきをした後、餅つきです。参加者の中で最も若い2人が杵と臼取りに挑み、現職時代のコンビもよろしく、ふた臼(四升)を見事につき終えました。早速、おろし餅、きなこ餅、雑煮に作り上げ、「うまい！」を連発しながら平らげていました。また、会員の1人が手作りした、大野名産の「里芋の煮ころがし」も合わせて出され、参加者全員が食欲の秋を心行くまで満喫していました。